

認知症を地域で見守る！

つながり

認知症ささえあい講座で「徘徊(はいかい)模擬訓練」実施

認知症の方が徘徊で行方不明になると、時間の経過と共に行動範囲が広がり、事故につながりかねません。家族が気づくまでに時間がかかる場合も多いため、早く発見・保護するためには**地域の方の気づき・見守りが重要**です。

①寸劇DVD「新得さんがいなくなった」

認知症になった「新得さん」が徘徊し、行方不明になる経過・家族の心情・警察への通報までを描いた寸劇を上映しました。町内のケアマネジャーらが自主作成したものです。



撮影風景



新得さん(写真中央)に声かけする参加者

②徘徊模擬訓練(声かけ体験)開始

行方不明になった「新得さん」の服装や特徴の情報を知り、発見したら声かけをするという訓練。公民館周辺を実際にグループで歩き、行動しました。どのように声かけすべきかを考えながら行いました。



●発行元●

新得町地域包括
支援センター
保健福祉課在宅支援係
TEL 64-0533

③みんなでグループワーク

訓練の感想や認知症の方を支援していく上で何が必要かなどを話しました。下記その他、たくさん意見・感想が出ました。

グループワークの様子



警戒されないような声かけが難しかった

知らない人には声かけしにくい

認知症を隠さず地域の人に伝えておくことが大切

日頃から挨拶する町づくりが必要

⑤「はいかい高齢者等SOSネットワークシステム」とは？

行方不明になった時に警察署に連絡すると、協力機関を通じて捜索協力を行うシステムがあります。新得警察署生活安全課の方より制度について説明していただきました。

④声かけの心得を学習～3つの「ない」

驚かせない・急がせない・自尊心を傷つけない

- ゆっくり近づいて相手の視野に入ってから話しかける。(急に後ろから声かけすると転倒の危険性あり)
- 「こんにちは」「お暑いですね」など普通の挨拶から。
- わかりやすい簡潔な言葉で1つずつ話しかける。



特集号



認知症になっても

安心して暮らせる町づくり

